

INDEX

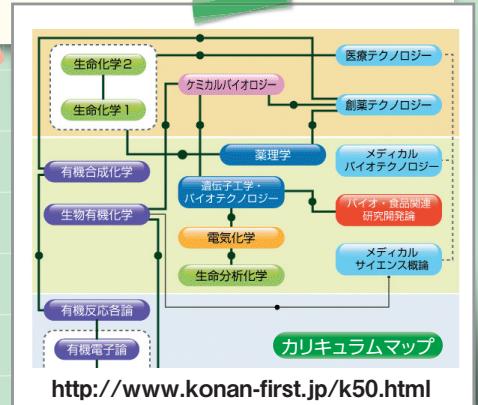
- ① カリキュラムマップをどうやってつくる?
- ② FD委員会主催 FD講演会
- ③ 学外セミナーに行ってきました!

Q1. FIRSTが先陣を切った理由とは?

ナノやバイオの応用分野を扱うFIRSTの履修モデルは少し複雑なので、**開設準備段階から、科目間の関連性も含めてわかりやすく図示したいと、みんなで考えていました。**学生が、自身の得意科目や将来学びたい応用分野から辿っていけるインタラクティブなコンテンツを目指して「学びのナビゲーション = まーなび」と名付けたものが、今のカリキュラムマップにつながっています。当初は、FLASHコンテンツを自作していました。しかし、予想以上に手間と時間がかかったので別の方法を検討していた折に、**就業力育成事業の一環としてカリキュラムマップの作成が挙げられている**との話をお聞きしました。そこで、先行事例として、補助金を利用させていただき、業者に委託するかたちで、カリキュラムマップの完成とWebページコンテンツ化にこぎつけることができた次第です。

Q2. 応用分野ごとのグループ分け。その思惑とは?

FIRSTではもともと、“関連学問”と“関連分野”によって専門科目をグループ分けしていました。“関連学問”とは、学生向けに言えば「高校で習った科目」のことで、「化学」、「生物」、「物理」をキーワードとしています。“関連分野”とはナノとバイオの応用分野のことで、10分野を挙げています。Web上の関連分野別開講科目表を見れば、どの関連分野にはどの科目が関係して、いつ開講されるのかが分かるようになっていきます。しかしもっと具体的に、**各関連分野における各科目の位置づけや科目間の関係を分かりやすく説明したかった。**例えば「ケミカルバイオロジー」という科目は「創薬」の分野でどのように必要とされ、また生かされ、「生物有機化学」とはどのように関係するのか。それを分かりやすく説明するために、**関連分野ごとにグループ化したカリキュラムマップが必要だった**のです。



<http://www.konan-first.jp/k50.html>

NEWS ①

カリキュラムマップをどうやってつくる?

インタビューしました!



フロンティアサイエンス学部 教授
松井 淳

FIRSTで先行して作成されたカリキュラムマップについて松井先生にインタビューしました。

Q3. カリキュラムマップは誰のために作られた?

基本的には**入学後の学生**です。少人数制が特徴であるFIRSTでは指導主任が面談をしながら履修指導を進めていくのですが、学生自身が1人でゆっくりと考えたいという時の参考にしてほしいという想いで作成しました。**高校生やその保護者**にご覧頂くことも想定しています。FIRSTは学部名からは中身が分かりにくい学部なので、カリキュラムマップを見て学部の学習内容を知ってほしい、という気持ちもありました。

Q4. カリキュラムマップは、どうやって作った?

制作期間が年度末という制限もあって6週間程度でしたので、全員で議論を重ねていくことはせず、**専門分野が異なる数名の教員**と意見交換をしながら制作にあたりました。どういうマップが正しいか、は教員によっても考え方が違うかもしれませんが、また、正解も一つではないように思います。今後は、**このマップをより良いものにしていくよう、学部で議論を深めていく**予定です。この**議論自体が、FD活動**といえると思います。

Q5. 学部ごとに異なる形式のマップができる?

カリキュラムマップには決まった形式はありませんので、学部ごとに自由な形式、自由な視点で作成してもらった方が良いのではないかと思います。ひょっとしたら、その形式自体が学部の特徴をよく表しているのかも知れません。そういう意味では、同じ形式のマップがならんでいるより、**いろいろな形式のマップが集まっている方が、受験生の目には魅力的に映る**かもしれないなあと思っています。

NEWS
②

FD委員会主催 FD講演会

2011年7月30日(土)

社会で働き続けるために
「教育力」を今、問う
—高校・大学・社会をつなぐ—キャリア獲得を見据えた
高大連携への期待
—高等学校教育の現状を
踏まえて—中小企業と学生を
「つなぐ」「結ぶ」神戸市教育委員会
事務局 総務部
学校計画課 指導主事
有元 文祐 様兵庫県中小企業団体
中央会 支援部
佐藤 拓 様オリバーソース株式会社
専務取締役
道満 善弘 様

この講演会では、高校、大学、企業が一緒になってひとりの人間を育てるという意識のもと、個々の問題や解決策を共有する必要性、そして、社会を生き抜き、働き続けるために必要な「チカラ」について模索しました。

今、社会が多様化するにつれてかつて見通せていた社会が見えにくくなり、それにつれて学校教育の役割も曖昧になってきました。また中小企業と大学間でも情報不足が問題点として挙げ

られ、求人があるにもかかわらず就職に上手く結びつかないケースが目立ちます。大学は、高校生に対して高校生の目線で情報を発信し、入学した学生には社会で通用する「コミュニケーション力」などを4年間で養う場としての役割が求められているのではないのでしょうか。

大学は、教職員のベクトルを合わせ、一層の努力をしていかなければならないという課題を共有する内容となりました。

NEWS
③

学外セミナーに行ってきました!

Seminar
Report

オススメ度 ★★★★★

楽しみながら学ぶ
授業に役立つワークショップ

知能情報学部 小出 武

セミナー名

実践的FDプログラム ワークショップ

2011年7月16日(土) 13:00~16:30
立命館大学 びわこ・くさつキャンパス
プリズムハウス P111 教室

立命館大学着任2年目の教員向けのワークショップに参加しました。ワークショップは2つの演習から構成されていて、それぞれの演習のテーマは話し言葉とノンバーバルコミュニケーションでした。グループで行うゲーム感覚の演習を行うことで、授業に役立つ内容を楽しみながら学ぶことができました。またグループワークを通じて、参加者同士が親しくなることもできるので、学部を超えた教員間の絆を深めることができる良い企画であると感じました。

オススメ度 ★★★★★★

院生と教員ともにハッピーに
なれるTA制度って何だろう?

法科大学院 小舟 賢

セミナー名

大学院FD

—私立大学が目指すこれからのPFF、TAD—

2011年7月9日(土)
立命館大学朱雀キャンパス

TA制度について、そして、博士課程のキャリア開発について、紹介がありました。大学教員養成(PFF)の取組みについては、博士課程学生などを海外の先進的な大学教員養成プログラムに派遣する、東北大学における取組みが紹介されました。

今後TADへの取組みを充実化させていく上で、そのことが院生にとって負担加重となり、かえって院生の研究活動やキャリア形成などに悪影響を及ぼすことのないよう、十分配慮する必要があるのではないのでしょうか。

2011年度 甲南大学 FD委員会 委員

鶴身 潔	副学長(委員長)
石井 昇	大学企画室長
菅 康弘	教務部長
井野瀬久美恵	広域副専攻センター所長
福島 彰利	教職教育センター所長
川田都樹子	文学部・人文科学研究科
須佐 元	理工学部
小山 直樹	経済学部・社会科学研究所
	経済学専攻
武井 寛	法学部
林 満男	経営学部・社会科学研究所
	経営学専攻
小出 武	知能情報学部

パーマロジャー	マネジメント創造学部
松井 淳	フロンティアサイエンス学部・
	フロンティアサイエンス研究科
町田 信也	自然科学研究科
柳原 初樹	国際言語文化センター
鶴木千加子	スポーツ・健康科学教育
	研究センター
渡邊 和俊	EBA高等教育研究所
篠田 有史	情報教育研究センター
小舟 賢	法科大学院
齊野 純子	会計大学院
松本 吉弘	教務部の専任職員管理職
美馬久美子	大学企画室の専任職員管理職

これらの詳細については

甲南大学
HP研究所・
センター

FD

FDニュース

FDニュースへの
ご意見、ご感想は
こちらこちらから
ごらん頂けます

大学企画室

TEL 078-435-2663(内線2810)

FAX 078-435-2306

MAIL kikaku@adm.konan-u.ac.jp